

お知らせ

新任医師のご紹介

# 形成外科外来よりご案内

完全予約制

部長 副島 宏美【常勤】

- ・日本専門医機構認定形成外科専門医
- ・日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医
- ・日本熱傷学会専門医
- ・オンコプラスチックサージェリー学会  
乳房再建用エキスパンダー/インプラント責任医師

西脇 仁【非常勤】

- ・医学博士
- ・日本形成外科学会形成外科専門医
- ・日本創傷外科学会創傷外科専門医

## 外来診察予定表

☆は女性です

	月	火	水	木	金
午前	西脇(初診・再診)	☆井内(初診・再診)	☆副島(初診・再診)	☆井内(初診・再診)	☆副島(初診・再診)
午後				☆井内(再診)	

## 対象疾患

- 外傷(けが)** (体表面やその近傍の組織損傷、顔面骨折(眼窩、頬骨、上・下顎骨、鼻骨等)、熱傷(やけど)等)
- 傷あと** (目立つ傷あと、瘢痕拘縮(ひきつれ)、ケロイド等)
- 皮膚・皮下腫瘍** (良性腫瘍(ほくろ、粉瘤、脂肪種等)、皮膚悪性腫瘍(皮膚がん))
- 眼瞼の変形** (眼瞼下垂、眼瞼(睫毛)内反(逆まつげ)、眼瞼外反等)
- 体表面の先天奇形** (顔面(唇裂口蓋裂等)・耳(副耳・埋没耳、耳瘻孔、その他)・手指・足趾の変形、乳頭(乳首)の変形(陥没乳頭)、臍の変形(臍ヘルニア、てべそ)等)
- 他の診療科での癌切除後の変形** (顔面神経麻痺による顔面の変形、顔面～口腔内の癌術後の変形、乳癌術後の欠損・変形等)

形成外科で治療を受けた患者さんが、笑顔で生活できるように精進して参りますので、ご紹介よろしくお願いたします。

令和4年度 第4回 和泉市立総合医療センター クリニカルカンファレンスの開催

日 時：2022年11月24日(木) 17:30~18:30

- Web開催
- 『最近の眼瞼下垂症の手術』 形成外科 部長 井内 友美
  - 『呼吸理学療法 - 胸郭運動学の観点から -』 リハビリテーション科 江口 隼矢

## 10月の休診・代診について

休診・代診については、ホームページ(休診案内)をご確認いただくか、地域連携センターまでお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。



**和泉市立総合医療センター 地域連携センター**

月～金曜日 9:00～19:00まで  
土曜日 9:00～13:00まで  
(但し祝日・年末年始の休日は除く)

TEL:0725-41-3150 (直通)  
FAX:0725-41-2513 (直通)

# 地域連携センターだより

発行/和泉市立総合医療センター 地域連携センター (毎月1回発行)  
電話/直通 0725-41-3150 代表 0725-41-1331  
FAX/直通 0725-41-2513



## ～ 専門・認定看護師のご紹介 ～

がん化学療法看護認定看護師  
松山 しま子

大切にしていること  
笑顔



### お仕事紹介

がん化学療法は、従来の殺細胞性薬剤と分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬を組み合わせて行われるようになり、複雑な投与管理や今までとは異なる副作用が生じています。そのため、薬剤の投与管理や患者さんのセルフケア指導と副作用管理が重要です。私は主に外来化学療法室で勤務し、抗がん剤の投与管理、セルフケア指導や精神面のケアを実践しています。また、院内のがん化学療法についての研修会を計画遂行し、スタッフ指導の役割を担っています。

### 認定看護師を目指したきっかけ

腫瘍内科という抗がん剤投与の専門医がいることを知り、医師が標準治療に基づき治療計画を協議し、最善な治療を考えていることに感銘を受けました。その時、私はがん化学療法の奥深さに興味を持ち、がん患者さんと関わりを持つうちに専門的な知識で患者さんの助けになりたいと考えたようになったことがきっかけです。

### 医療関係者の皆様へ

がん化学療法は副作用をコントロールしながら、治療を継続し生活の質を保つことが重要です。そのためには、地域の医療者間が連携を密に患者さんを支えていくことが必要不可欠と考えます。がん患者さんが安心して治療が受けられるよう、寄り添い支援する看護を目指しています。



# 呼吸器外科からのご案内

本稿を記載しております8月は、新型コロナウイルスの第7波の真っ只中で、これまで以上に多大な苦勞を強いられている事と存じます。当科におきましては感染対策を十分に図ったうえで、日常診療に制限が及ばないよう努力していく所存です。

さて、2021年10月より開始したロボット支援下肺切除術についてアナウンスさせていただきます。

呼吸器外科手術のアプローチは、開胸→VATS(video assisted thoracic surgery)と進化して患者さんへの傷の大きさや痛みの低減を図ってきました。VATSには小開胸を併用して直視下に行うハイブリッドVATSと、全てを鏡視下に行うコンプリートVATSがあります。当科では、肺葉切除や肺区域切除などの解剖学的切除術においては、開胸(皮切長12-25cm)かハイブリッドVATS(皮切長6-8cm)を行ってきました。呼吸器外科領域におけるロボット支援下手術は大学や研究施設などで2000年代から行われておりましたが、2018年に肺悪性腫瘍手術に対して保険収載となり、それ以降様々な施設がロボット支援下手術を採用するに至りました。遅ればせながら、当科におきまして2021年10月より導入しております。

当院で採用しておりますダビンチサージカルシステムは、最新のXiです。従来のSiに比べてポートやカメラのサイズが細径となり、より低侵襲となりました。呼吸器外科手術においては肺を摘出する助手用ポートが3cmと最大であり、その他の4つのダビンチポートは1-1.5cm程度の大きさです。術後の痛みは従来のハイブリッドVATSと比較して明らかに軽減していると実感しています。また、ダビンチのカメラは10倍の拡大視になっており、従来のハイブリッドVATSや開胸手術よりも繊細な手術が可能になっています。手術時間が従来よりもやや長くなる傾向はみられますが、今後は呼吸器外科チームの習熟によって短縮していくと考えます。昨年の導入以来、50例弱の症例でロボット支援下手術を行いました。大きなトラブルもなく導入できています。

ロボット支援下肺切除術についてご相談がありましたら、当科外来にお越し下さい。

呼吸器外科

副部長 佐藤克明



和泉市立総合医療センター  
呼吸器外科 副部長 佐藤 克明(さとう かつあき)

〈資格〉

医学博士 / 日本呼吸器外科学会専門医 / 呼吸器外科専門医  
ロボット支援手術認定医  
肺がんCT検診認定機構 肺がんCT検診認定医師

## 外来診察予定表

受付時間は8:00~11:30です

	月	火	水	木	金
午前		佐藤(初・再診) ロボット手術専門外来	富沢 (初・再診)		富沢 (初・再診)
午後	光富・西野 (初・再診)	佐藤(初・再診) ロボット手術専門外来	富沢 (初・再診)	富沢 ※14:00~ (初・再診)	

## 対象疾患

原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜中皮腫、気胸、炎症性肺疾患に対して外科治療を行っています。病気の進行度と全身状態によって手術適応を評価して対応いたします。また、間質性肺炎やリンパ腫などに対する生検も積極的に行っています。



## 手術実績

(2021年1月1日~12月31日)

	手術数	胸腔鏡手術 (ロボット支援)	術式				
			全摘除	葉切除 <sup>a</sup>	区域切除	部分切除	その他 <sup>b</sup>
原発性肺癌	138	106(15)	0	71	10	53	4
転移性肺腫瘍	21	17(0)	0	3	3	14	1
縦隔腫瘍	21	21(0)	0	0	0	0	21
気胸	41	40	0	0	0	35	6
膿胸・膿瘍	22	20	0	0	0	0	22
その他	69	38	0	7	5	18	39
合計	312	257	0	81	18	120	93

<sup>a</sup>:二葉切除、多臓器合併切除を含む、<sup>b</sup>:生検も含む。膿胸手術のうち開窓術2例

呼吸器疾患への的確・迅速な医療を目指して

## 呼吸器センター

胸部手術  
320例/年  
(肺がん150例/年)

気管支鏡  
800例/年

放射線療法  
300例/年  
(肺がん100例/年)

化学療法  
1200例/年  
(肺がん360例/年)

呼吸器センターでは和泉市を中心とした泉州地域における呼吸器疾患、特に肺がん治療への迅速な診断と適切かつ最良の治療を提供することを目的として設立しました。これまで、初診から肺がん治療開始まで2か月程度を要していましたが、センター設立により1か月へ短縮されました。それぞれ独立して診療にあたっていた呼吸器内科(診断担当)、呼吸器外科(外科治療担当)、腫瘍内科(内科治療担当)が合同で呼吸器カンファレンスを行うことによる大きな成果です。

呼吸器カンファレンスでは、肺がん診断のための気管支鏡検査前に、症例毎の治療フローチャートを立案しています。手術適応症例には呼吸器外科への紹介時期を決定し、必要に応じて確定診断前に手術説明を行います。薬物治療の適応症例に対しては、薬剤決定に必要な遺伝子検査の種類やタイミングを決定しています。治療方針を共有し、各科で連携することで迅速な治療介入を実現できています。さらに、がんに対しての多職種カンファレンス(カンサーボード)を経ることによって、より適切で最良な治療を提供することを実現しています。肺がんを中心とした呼吸器診療において、大きな安心と高い専門性を有した呼吸器センターであると自負しています。呼吸器疾患でお困りのことがございましたら、地域連携センターへ連絡いただければ迅速に対応させていただきます。

